

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第258号 (2026.1.25-2026.2.1)

参加者クイスケ、三明十種、桑原維、栗井ゆずる、田中美蟲角、空野つみぎ、

しまねこくん、宮坂菱哲、石川聡、汐田大輝、笛地静恵、白井沙漠、

Nichttraucherchen、松本清展、あづみのマルコ、鈴木正巳、西沢葉火、

ゆうたま、片羽 霽雀、天然石アクセサリー、西脇祥貴、岡村知

昭、東ころ、カオルル、季川詩音、朝暮シナミ、大山 晶子、雷(ら

い)、まじけい、台風のめ、雨声、ふゆこ、ふくろうたかこ、Rao、

霧雨魔理沙、安藤 蜜豆、水の眠り、不思議な話のアイン、ひいらぎ、

水玉子、水彩、牛田悠貴、月階袖、しろとも、非常ロドット、何とな

く短歌、なさわご、半岬チロ、桔梗、都まなつ、砂原妙々、Ryo、月

波与生 (五二名)

◆川柳・俳句

猫社員も退職希望してるのに クイスケ

軒下の歴史が動く点鼻薬 クイスケ

差し水もあなたも似てて非なるもの しろとも

崩れてもいいんですかと敬語なのも良い 牛田悠貴

緋色っていうんだね橋で泣く少年合唱団 牛田悠貴

西寄りの風が強いと不眠症 汐田大輝

今月は声にできない外来語 汐田大輝

透明になるまで桃を踏みつける 汐田大輝

近くの星遠くの星を見る病室 雷

何者にもなれずトンネル抜けた町 雷

雨給へ空から龍角散が降る 大山 晶子

豆腐の角の蝸牛 Nichttraucherchen

マッチでは燃えぬチケット売る熟女 ゆうたま

夢夢夢いつき先生消しきれず ゆうたまた  
バリトンのキヤミソールから紙懐炉 空野つみき  
鮫鱈のエリアに夜の忍びよる カオルル  
破れない燃えない白旗だ どうだ 岡村知昭  
そうします北京ダックに生まれます岡村知昭

\*

際のとつ期限切れにし紅い梅 三明十種  
らうめん<sup>らうめん</sup>に心添ひゆく寒の内 田中美蟲角  
ジーンズの尻張り詰めて雪下し しまねこくん  
本でしか見たことがないラッセル車 宮坂愛哲  
まだまだ散らない駅へのみち紅い梅 石川聡  
日本海寒帯気候師団集結中！ 笛地静恵  
期日前終えて孤独な八日間 松本清展  
レシート<sup>レシート</sup>の信号は赤背中向け あづみのマルコ  
どん底の果てはありけりタンポポ黄 鈴木正巳  
踏絵<sup>踏絵</sup>だろうか点字ブロック 西沢葉火  
逆立<sup>逆立</sup>って白子のフラン半分こ 片羽雲雀  
最期のお別れは約束の赤いネイルで 天然石アクセサリー

Kiki's

父になる時湿る中島みゆき 西脇祥貴  
恋ひとつ叶えてみてもふゆはふゆ 東ころ  
会いたいって言ったら笑われちゃうかな ふゆこ  
犬の遺産のゴムボール ふくろうたかこ  
手袋は君の暖かさで了解 <sup>Beag</sup>  
パンダさん<sup>パンダさん</sup>たくさんの愛 ありがとう 霧雨魔理沙  
鏡の前にイチゴを並べて眠る 安藤蜜豆  
裏口のジャングル涙は光りに アイン  
日記買ふ使わないけど日記買ふ 季川詩音  
風花<sup>風花</sup>やこころの在処言えぬ旅 ひいらぎ  
ジャレット<sup>ジャレット</sup>の深き眠りやスイートピー まどけい  
ふう、りんは春を鳴らす 水玉子

幸せがテレビの中にしかなくて 水彩

いつもより少し頭がうるさい日 なさわい

ベビー馬拉カスにも背骨 半岬チロ

にせもののホットケーキを食べたいね 都まなつ

幻覚と確信しながら花を摘む 安藤 蜜豆

\*

卵から見たこともない母がでる 月波与生

◆ 短歌

イラストの棘は鋭く賞賛の前に影さす生成 非常口ド  
ット

知らなくていいのよあなた理由なんて嘘か真か目を逸らす

きみ 桑原雑

月の下 冥土をあるき空仰ぐあなたの肩に雪がちらほら

栗井ゆずる

絶望と希望、徒然繰り返し終日を得る事も憚り 朝暮ミナ

ミ

天使のフィギュアの裏を舐めをれば曇天のにほひ舌に染み  
入る 台風のめ

糸電話 手繰り寄せる光 母子手帳にも遺書にもない雨

声 雨声

来たことのないまちかどがなつかしいとき吹くいつかのミ

モザのあなた 月階柚

朗らかな笑みを湛えて空仰ぐ だから空元気って呼ぶのか

何となく短歌

この地球（ほし）で旅する者を照らすのか夜半の月よ 今

宵は誰を 桔梗

凍星の瞬く下で息すれば孤独は未だ名を持たぬ光 砂原

妙々

◆詩・短文

ドレスみたいな服を着て  
映画みたいに街を歩きたい

ラジオみたいに笑って話すわ  
あなたには笑ってほしい

わたしがあなたに確信が持てなくても  
あなたにはわたしに確信してほしい

わたしよりも少し先にいて  
あんまり遠くにいかないで  
後ろにもいかないで  
上にも下にもいないのよ  
（白井砂漠）

◆作品評から

透明になるまで桃を踏みつける 汐田大輝

〜透明にがとても好きです。（青海波）

西寄りの風が強いと不眠症 汐田大輝

〜眠れない。西寄りの風が強くて、眠れない。そう訴える人のまなざしの辛さに、どう応じたらいいのか。まさか「東寄りの風が強かったら眠れるかも」などとは言えない。西寄りの風がさらに強くなり、窓を強く叩く。自分も、眠れなくなってしまうのか。（岡村知昭）

死がこわい魚のための陶器市 空野つみき

〜死がこわい魚と陶器市には連絡路が見えないけれど  
各々がユニークだ。連絡路がうつすら見える作りになれば  
とんでもない句ができるだろう。(月波与生)

魁皇が透けてる内容証明 ゆうたま

〜一体魁皇が何をしたかというのだ。元大関魁皇は現浅  
香山親方。元宮城野親方(白鵬) 退職問題では板挟みにな  
って苦労しただろう。(月波与生)

浦安の先からシヤコの共和国 汐田大輝

〜浦安と「シヤコの共和国」が不思議な説得力を持つて  
いる。いってみたいシヤコの共和国。(月波与生)

破れない燃えない白旗だ どうだ 岡村知昭

〜何があっても白旗だけはあげられるんですね。負けは  
認められる。緊迫感のある作品だと思います。(季川詩音)

幻覚と確信しながら花を摘む 安藤 蜜豆

〜両手いっぱい幻の花を抱える貴女の笑みの儚さ想う  
(tama)